

独立行政法人国立美術館の平成26年度業務実績に関する評価結果を踏まえた運営業務の改善等への反映状況

中期計画項目	平成26年度業務実績評価における主要な指摘等	左記の指摘を踏まえた平成27年度の改善の状況
<p>I. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1. 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開</p> <p>(1) 展覧会への取組</p>	<p><u>入館者の確保に向けた継続的な運営の改善</u>が望まれる。特に、広報活動の充実のために、SNS等新たなメディアを活用し、また関係組織、機関との連携を図りながら、<u>効率的かつ効果的な広報戦略を推進</u>することが望まれる。</p>	<p>東京国立近代美術館に広報室を新設し、法人内各館と協力しながら海外に向けた広報に係る調査を行うなど、ニーズの把握に努めた。また、SNS等のより一層の活用、ロコミにつながる関連イベントの実施など、限られた人員と予算の中で最大限の効果を発揮するための工夫に引き続き取り組んだ。</p>
<p>I. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1. 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開</p> <p>(6) 観覧環境の提供</p>	<p>2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、外国人向けの展示環境の充実等、<u>多言語化に向けた取組を積極的に推進</u>していくことが望まれる。</p>	<p>各館の所蔵作品展、企画展等において、キャプションや作品リスト等の多言語化の実施に努めた。東京国立近代美術館で開催した「恩地孝四郎展」では、挨拶パネルを5カ国語（日本語、英語、中国語繁体字、中国語簡体字、韓国語）で掲示したほか、カタログのほぼ完全なバイリンガル化を行った。</p>
<p>I. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>2. 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示しうるナショナルコレクションの形成・継承</p> <p>(2) 収蔵品の保管・管理</p>	<p>ナショナルセンターとしての機能を損なうことがないように、<u>収蔵品貸出しや外部倉庫活用の拡大、地方自治体や関係機関と継続的な検討</u>を行い、<u>保管環境の一層の改善</u>に取り組む必要がある。</p>	<p>収蔵品の保管・管理については、ほとんどの館において収納が限界に達している状況が続いているが、その状況下で国立美術館としてできることを着実に実施し、作品の安全保管に努めた。また、新たな施設の建設に向けて関係機関等との協議を行うなど、引き続き検討を行った。</p>